

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	47人	国語B	47人
② 算数A	47人	算数B	47人
③ 理科	48人		

5 留意事項

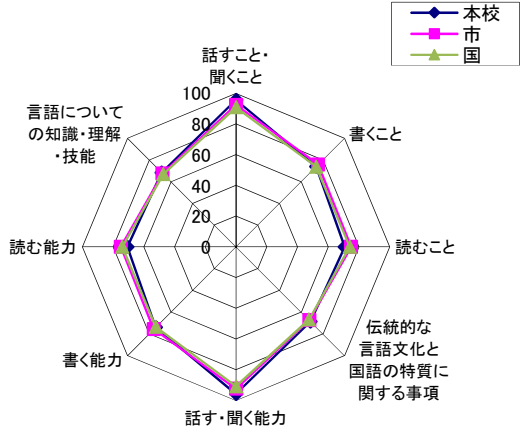
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

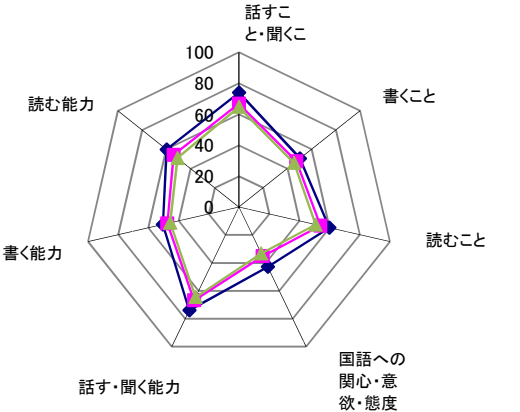
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	95.7	92.4	90.8
	書くこと	73.9	75.7	73.8
	読むこと	70.7	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.5	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	95.7	92.4	90.8
	書く能力	73.9	75.7	73.8
	読む能力	70.7	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	68.5	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	73.9	66.8	64.6
	書くこと	50.4	47.4	45.6
	読むこと	59.8	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	42.8	35.2	33.2
	話す・聞く能力	73.9	66.8	64.6
	書く能力	50.4	47.4	45.6
	読む能力	59.8	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

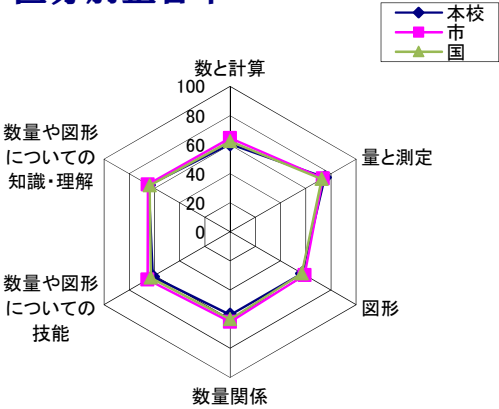
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○国語A、Bともに市の平均正答率を上回っている。どの問題でも市の平均正答率より高くなっている。国語Bでは、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題での正答率が、市の平均よりも8.9ポイント高かった。	・引き続き、少人数のグループやクラス全体の話合いなど、目的に応じた話合いができる場を設ける。また、自分の考えと比較しながら話を聞いたり、適切な根拠や理由を付け加えてスピーチをしたりするなど、話合い活動をさらに充実させていく。
書くこと	○国語Bでは、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、条件に合わせて理由を書く問題の正答率が、市の平均より14.0ポイント高かった。 ●国語Aでは、物語の構成の工夫を考える問題での正答率が、市の平均より1.6ポイント低かった。	・文章の構成を意識して書くことができるよう、物語や説明文の書き方を、教科書の例などを参考に細かく指導したり、目的に合わせて書く事柄を整理させたりすることで、伝えたいことを適切に表現したりできるようにする。
読むこと	○国語Bでは、市の平均正答率を5.8ポイント上回っている。伝記に書かれている内容を正しく読み取ることができていた。 ●国語Aでは、市の平均正答率を4.2ポイント下回っている。登場人物の心情を情景描写を基に考える問題では、叙述を根拠として読み取ることに課題がみられる。	・登場人物の心情を読み取るために、物語の中に起きる変化やその前後の出来事、情景描写、繰り返し使われる表現など、根拠となる表現や叙述に着目できるよう授業の工夫・改善を図っていく。また、読書活動を推進し、読む力を高められるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○相手や場面にに応じて適切に敬語を使う問題での正答率は、市の平均を5.9ポイント上回った。 ●漢字を書く問題での正答率は、市の平均より高いものもあれば、低いものもあった。文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く問題での正答率が、市の平均をやや下回った。	・漢字の読み書きについては、朝の学習や宿題等で反復練習したり、小テストで確認したりしているので、今後も継続して指導していく。また、主述の関係、敬語、慣用句、ローマ字など、6年間で学習したこと習熟が図れるよう、授業場面や朝の学習等でも振り返っていきたい。

宇都宮市立城山中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

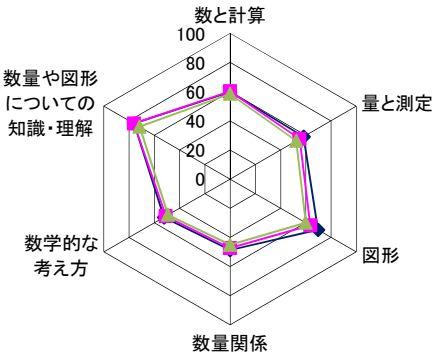
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	60.4	64.5	62.3
	量と測定	75.0	73.6	72.7
	図形	57.2	59.1	56.9
	数量関係	57.0	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	61.3	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	64.5	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	59.8	60.2	58.4
	量と測定	58.2	55.0	52.4
	図形	69.6	63.5	59.9
	数量関係	48.7	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	52.4	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	76.1	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

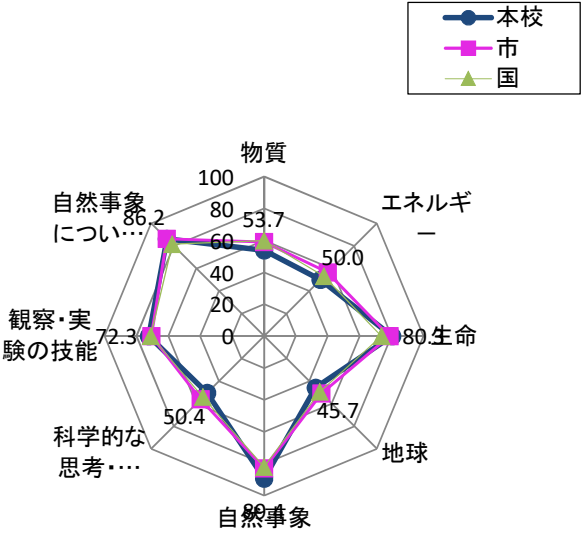
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○算数Bでは、市の平均正答率とほぼ同じであった。規則性を解釈し、それを基に条件を整理して判断する問題での正答率が高かった。 ●算数Aでは、市の平均正答率より4.1ポイント低かった。除法で求めた数を数直線に表す問題や、除数が小数である場合の計算問題での正答率が低かった。数や計算についての知識の定着が不十分であると思われる。	・学習したことが身に付いているか確認するための課題を出したり、単元の導入で既習の内容を確認したりすることで定着を図っていく。 ・基礎的な計算を解くことができるよう、ミニプリントを作成し、計画的な活用を図り、計算力を高められるようにする。特に、除法の計算が正確に行えるよう指導を続けていく。
量と測定	○平均正答率は、算数A、Bともに市の平均を上回った。 ○単位量当たりの大きさについて、正答率が市の平均値よりも高く、よく理解できていた。 ●分度器を使って180度以上の角度を求める問題での誤答が目立った。 ●記述して回答する問題に対しては、無回答になってしまう様子が見られる。	・既習の事項を利用して求められるよう、繰り返し学習できるような支援をしていく。 ・180度以上開いている角度を調べる際の方法について復習し、習熟を図る。
図形	○算数Bでは、市の平均正答率を6.1ポイント上回っている。図形の性質や構成要素を基に考えることができる。 ●円周率を求める式を選択する問題での正答率が低かった。円周率について知識の定着が不十分である。	・基礎的な問題を解くことができるよう、ミニプリントを作成し、繰り返しの練習を計画的に行うようにする。 ・既習事項の円周をを求める学習と第6学年で学習する「円の面積」の学習との関連を図り、円周や面積の求め方について理解を深めていく。
数量関係	○算数Bでは、市の平均正答率をやや上回っている。棒グラフと帯グラフからの読み取りや、分かったことを適切に判断することができていた。 ●算数Aの正答率は、市の平均より4.8ポイント低かった。割合の問題では、比べられる量、もとにする量を判断し、百分率を求める問題の正答率が低かった。	・割合は、社会や総合などの他教科や、生活場面で活用できるように、算数の学習の時間、朝の学習の時間に振り返らせたり、家庭学習で課題にしたりするなどし、習熟を図っていく。

宇都宮市立城山中央小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	53.7	59.0	59.8
	エネルギー	50.0	56.4	53.1
	生命	80.3	78.6	73.6
	地球	45.7	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	89.4	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	50.4	56.1	54.1
	観察・実験の技能	72.3	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	86.2	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	○ろ紙の適切な操作方法についての設問は市を1.7ポイント上回っていた。 ●ものを水に溶かしても全体の重さは変わらないことについての設問の正答率は市の平均より11.3ポイント低かった。	・ろ紙の操作、複数の実験方法から得られた結果を基に考察する機会を設定し、物質についての理解を深めさせるよう指導していく。 ・質量保存の法則等の正確な理解を図るよう補充問題を解かせることにより定着を図る。
エネルギー	●電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験方法を構想する設問の正答率は、市の平均を7.8ポイント下まわっていた。	・電気の回路についての理解を図るため、授業の中で電気回路の作成する機会を設け、触れさせていきたい。 ・回路を作る過程において分かりやすい回路作成の教材制作をし、理解を深めたい。
生命	○安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、観察できる方法を構想する設問においては、市の正答率を6.5ポイント上回っていた。 ○調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析する設問は、市の平均を6.7ポイント上回っていた。	・特に関節を動かす筋肉のはたらきについては、「ゆるむ」「縮む」という言葉の定着を図るよう繰り返し押さえる。 ・骨格模型等を活用し、実感のある理解をさせる。
地球	○より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報を関連付けながら、分析して考察する設問の正答率は市の平均を2.4ポイント上回っていた。 ●複数の情報を関連付けながら、分析して考察する設問の正答率は市より17.9ポイント低かった。	・川の「浸食」「運搬」「堆積」のはたらきについてその働きの具体的なイメージを持たせられるよう、実験等を写真や動画で記録したものを、繰り返し観察させ、イメージを捉えさせる。

宇都宮市立城山中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」では、肯定的回答割合が97.9%となっている。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」での肯定的回答率も全国・県の平均を大きく上回っていることから、児童一人一人を認める学級経営が、児童の自己肯定感を高めていると考える。

○「学校のきまりを守っていますか」という質問では、90%以上の児童が肯定的にとらえており、全国、県の平均値と比べても高い。生活習慣に関わる質問項目でも肯定的回答の割合が高く、きまりを意識して生活している児童が多いことから、今後も継続して、学校のきまりを意識して生活できるように指導していく。

○「算数の勉強は大切だと思いますか」、「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問では、どちらも肯定的回答が100%であった。算数への教科有用感を感じていることから、今後はさらに算数が好きになるよう指導の仕方を工夫したり、難しい問題にも意欲的に取り組むことができるようきめ細やかな支援をしたりするなどし、算数への関心、意欲を高めていきたい。

○「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」の質問では、全国・市の肯定的回答割合より5ポイント以上高い。課題解決の際に、主体的に学習に取り組むことができるので、さらに進んで発言や発表ができるよう、場に応じて学習形態を工夫していく。

●「新聞を読んでいますか」の質問では、肯定的回答が全体の2割程度であった。全国や県の平均と大きな差はないが、国語の時間に新聞を活用したり、学校図書館の新聞コーナーを紹介したりするなどし、テレビやインターネット以外の手段を使って情報を得ることや文字に触れる機会を増やしていく。

●「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」「地域の大人(学校や塾・習い事の先生を除く)に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか」の質問項目での肯定的回答率は、全国、県の平均と比べて低かった。総合的な学習の時間を通して地域とのかかわりを深めたり関心を高めたりできるようにしていきたい。

宇都宮市立城山中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学習のまとめと振り返りの活動の工夫	・学習のまとめと振り返りの仕方について、職員で共通理解を図り、学習に応じたまとめと振り返りを行う。	・学習のまとめと授業後の振り返りの活動についての意識が高まってきており、習慣化が図られてきた。しかし、自分の考えを書くことが難しいと感じている児童も見られることから、さらに学習効果を高めることができるような活動にしていく必要がある。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
叙述を基に、登場人物の心情を読み取る問題での課題が見られた。	読解力を高めるための工夫	授業場面において、指導の工夫、改善を図るとともに、辞書を活用して語彙力を高めたり、学校図書館を利用したりするなどし、読解力を高められるようにする。